

評価分類		内 容	評 定				
			5	4	3	2	1
I 保 育 の 計 画 性	1 園の教育 理念・教育 方針の理 解	○園の教育（保育）理念や教育目標（創立理念・カトリックの精神等）を理解している	2	6	6	1	0
		○園の方針について、園長や教職員と話し合い理解を深めている	1	7	6	1	0
		○園の目指す子ども像を具体的にイメージできている	1	8	6	0	0
	2 保育課程 の編成	○幼保連携型認定こども園の教育・保育要領を理解し、いかしている	1	5	9	0	0
		○園の教育（保育）課程は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、園の教育理念・教育方針をもとに社会状況や幼児の年齢や発達、特性に応じた編成になっている	1	8	6	0	0
		○教職員全員の協力により教育(保育)課程を評価・反省し、必要に応じ改善している	3	5	6	0	0
	3 指導計画 の作成	○園の方針を指導計画や保育に生かそうとしている	4	4	4	0	0
		○指導計画は教育要領・教育（保育）課程をもとに作成し、長期・短期的に見直しを常に行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成している	0	7	4	0	0
		○個々の乳児・幼児の理解と発達状況に応じた指導計画を作成するようにしている	4	3	3	1	0
		○日々の保育の記録を取り、自ら検討するとともに保育教諭間で話し合い、次の計画にいかすようにしている	4	5	1	1	0
	4 環境構成	○安全で清潔な環境構成にしている	3	8	4	0	0
		○乳児・幼児の興味や関心、実態に即した環境構成にしている	3	8	4	0	0
		○幼児が主体的に関わり、自ら活動を展開していけるような場・空間、遊びに必要な遊具・用具・素材などが必要に応じて準備配置されている	2	9	4	0	0
		○乳児に安全で口に入れても危険のない遊具が整備されている	2	11	2	0	0
		○楽しい雰囲気や安定した生活ができる環境になっている	5	8	2	0	0
		○乳児・幼児の発達や生活を見通した環境構成にしている	4	8	3	0	0
		○乳児・幼児の動線・目線に配慮した環境構成にしている	3	9	3	0	0
		○他年齢との関わり、自然環境・地域の特性をいかした保育を心がけている	3	5	6	1	0
		○乳児・幼児の実際の活動に合わせ、適切に環境を再構成している	2	7	6	0	0
		○特別な支援を必要とする乳児・幼児も共に生活する保育環境を整えている	2	5	7	1	0
5 保育と計 画の評価 反省	○自分の保育と計画の評価・反省を常に行い、次の保育に生かすようにしている	1	8	3	0	0	
	○互いの保育や計画を検討し、評価・反省を加え、助言を参考にしながら保育に生かしている	1	7	2	2	0	
	○余裕をもって計画を立て、教材準備を行い、保育に向けている	1	6	2	3	0	
II 保 育 の 方 法 と 展 開	1 健康・安全 への配慮	○登園時に視診し、乳幼児の心身の健康状態を把握している	5	6	4	0	0
		○体調が悪そうな場合は静かに寝かせたり、検温するなど適切な処置を行い、速やかに保護者へ連絡している	7	6	2	0	0
		○ケガや事故に気を付け、万が一事故やケガが発生した場合は、即、園長に報告し、保護者に連絡を取り、医療機関を受診するなど、適切な処置を行っている	7	4	4	0	0
		○危険場所がないか、危険な遊びをしていないか常に観察し、乳児は目を離さず、幼児は子どもたちと一緒に約束をしながら安全教育を行い、配慮する	5	8	2	0	0
		○保育室・教室内外の清掃や換気・採光・室温管理等に気を付けている	3	8	4	0	0
		○保育室・教室の消毒・空気清浄・湿度調整を行っている	3	5	6	1	0
		○手洗い・消毒・トイレの使い方などを具体的に教えている	1	6	7	2	0
	2 乳幼児の 見取りと 理解	○一人一人の乳児・幼児をよく観察するように心がけている	4	7	3	1	0
		○幼児の話を聞いたり、乳児のサインを見定め、思いを受け止めるようにしている	4	6	4	1	0
		○個々の乳幼児の発達の姿や課題について見通しを持つことができる	2	4	8	1	0
		○乳児・幼児の興味・関心を捉え、保育に生かすことができる	2	4	8	2	0
		○乳幼児の理解のために保護者と話し合い、家庭生活を把握するよう努めている	2	4	5	2	0
		○乳児・幼児に先入観を持って接せず、多面的にとらえるよう心がけている	2	5	8	0	0
		○一人一人の乳児・幼児の思いや性格・個性を理解し、寄り添いながら関わっている	3	7	5	0	0

評価分類		内 容	評 定				
			5	4	3	2	1
II 保 育 の 方 法 と 展 開	3 内 容	○生活の中で祈りを大切にしている	0	3	9	2	0
		○人や物を大切に、感謝する心を育てる配慮をしている	2	9	4	0	0
		○一人一人が安定感をもち、友だちと協力したり、思いやったり助け合って生活できるようにしている	3	3	6	0	0
		○生活や遊びの中で頑張ったり我慢したり、心の発達が図れるように配慮している	2	8	5	0	0
		○温かい態度で受け止め、乳幼児の不安や緊張を適切に解消するようにしている	4	5	6	0	0
		○個々に応じて働きかけ、信頼関係を早期に築くことができるように努めている	4	8	3	0	0
		○乳児・幼児一人一人をありのままの姿を受け入れようとしている	5	6	4	0	0
		○乳児・幼児とスキンシップをとるようにしている	10	4	1	0	0
		○乳幼児が遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供している	1	5	9	0	0
		○乳幼児の年齢や発達に応じた関わり方をしている	1	9	5	0	0
		○乳幼児が自ら考えたり、工夫したりできるような見守り方をしている	1	6	8	0	0
		○乳幼児をほめたり、励ましたり目当てを見つげられるような言葉がけをしている	2	9	4	0	0
		○乳幼児のトラブルに対し、適切な対応をしている	2	6	7	0	0
		○真理に関する感性を育み、善悪の判断ができる良心を育てようとしている	1	7	7	0	0
		○身近な事象（自然的・社会的）や動植物に触れ合い、親しむとともに生命の大切さや畏敬の念を感じ取れるようにしている	2	0	11	2	0
		○周囲の環境に積極的にいかわり、感じたり考えたりする取り組みを行っている	2	1	11	1	0
		○数・図形・文字等に関して、生活の中で乳幼児の興味・関心をおさえ、自ら取り組める環境を整えている	1	0	9	4	0
	○生活の中で言葉のやり取りをしたり、様々な事象を知ったり、考えたりすることができるよう配慮している	2	4	6	3	0	
	○絵本や紙芝居・物語等を使って想像力を豊かにし、言葉に対する感覚を育てている	2	10	2	1	0	
	○様々な表現活動が自由に行えるように環境整備している	1	4	8	2	0	
○表現活動を通して、工夫したり、考えたり、幼児の興味・関心等にそって創造性を発揮できるように努力している	1	2	10	1	1		
○世界の平和を大切に願う心を育てている	1	2	10	1	1		
4 保 育 者 同 士 の 協 力 連 携	○教職員によって協力体制を築き、全ての乳幼児についてある程度理解しあうようなきめ細やかな保育を行っている	2	7	4	1	0	
○縦割りクラスでは異年齢児、横割りの時間では同年齢児が互いに刺激しあい、相乗効果が表れるよう、配慮した関わりを心がけている	1	0	12	1	0		
III 保 育 教 諭 と し て の 資 質 向 上 ・ 能 力 ・ 良 識 ・ 義 務	1 保 育 教 諭 と し て の 能 力 ・ 良 識 ・ 義 務	○保育教諭としてより高度な専門知識や技能を身に付けようとして進んで研修している	0	4	8	1	1
		○保護者との信頼関係をしっかり築き、子どもたちの資質を共有するようにしている	3	1	8	1	0
		○乳幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにしている	5	3	6	1	0
		○職務上、知りえた情報を外部にもらさないよう守秘義務として守っている	13	2	0	0	0
		○園の重要書類は持ち出していない	13	2	0	0	0
		○教材・教具の管理・遊具の点検に気を配っている	0	8	7	0	0
		○クラス・園内外の清掃や整理整頓を常時心がけて実行している	2	4	7	1	0
		○保育教諭であることに誇りをもち、生きがいを感じている	4	7	2	1	1
		○自分自身も園運営に参画しているという意識をもって勤務している	3	4	6	2	0
		○教職員間の人間関係において、信頼と協力し合えるように努力している	4	7	2	1	0
		○園内外の研修等に意欲的に参加している	1	2	7	2	1
		○会議や打ち合わせなど、他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	2	2	9	1	0
		○園内における報告・連絡・相談を適切に行っている	5	6	3	0	0
		○園全体の運営方針・目標を把握し、職務全般に反映させるように努めている	1	7	4	2	0

評価分類		内 容	評 定						
			5	4	3	2	1		
1	保育教諭としての能力・良識・義務	○当番や役割による仕事分担の責務を果たしている	3	8	4				
		○キリストの教えを学び、弱い者・小さな者を大切にされたキリストの姿に倣い、それを乳幼児に伝える努力をしている	1	1	9	4	0		
		○乳児に関する安全な生活や発育に関する情報、幼児に関する教育情報、地域・社会等様々な情報を捉えようとしている	1	5	7	2	0		
		○自然に興味・関心を深め、感性を磨き、命の尊さを感じている	1	5	7	2	0		
		○幼稚園で仕事ができることに喜びと誇りを感じている	5	5	4	0	1		
IV 保護者への対応	1	情報の発信と受信	○子どもの様子、子育てのポイントなどの情報を共有して、保護者に伝えている	3	3	4	1	0	
			○保育参観・保護者懇談会・個別懇談などを通して、子どもの共通理解を深めている	2	5	4	1	0	
			○電話・連絡帳・メール等を通して、緊急の連絡や必要に応じた連絡をしている	6	2	4	0	0	
			○個々の家庭における子どもたちの様子を把握し、保育に生かすとともに子育ての相談相手となるように努めている	3	4	5	1	0	
	2	協力と支援	○保護者からの様々な要望・意見については安易に受けたり、断ったりせず、園長や主幹、保育教諭間で共有し報告や相談をし、適切に対応している	5	4	2	1	0	
			○園全体が共通理解のもと、一人一人の子どもを大切に、責任を持って関わるように心がけ、互いに支え合うようにしている	6	4	5	0	0	
	3	対応上のマナー・対処方法	○保護者の国籍・思想・宗教・価値観、また子どもの性差・障害・個性等により差別しない	11	2	1	0	0	
			○園のすべての保護者に対し、親しみを込めた挨拶や会話を心がけている	9	5	1	0	0	
			○保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	5	6	2	0	0	
			○クレームがあった場合は、謙虚に話を聞き、園長に報告・連絡・相談をし、教職員全体で検討し、共通理解の上で、迅速かつ的確に対応するように努めている	7	4	3	0	0	
	V 地域・関係機関との連携	1	地域や自然・人々との関わり	○機会をとらえて、地域の人々に幼稚園を理解してもらえるように努めている	2	4	5	2	1
				○地域の行事などに積極的に参加し、文化や伝統に触れる機会を大切にしている	1	6	5	1	1
○他の教育・保育機関、療育支援センターなどと連携や交流を図り、保育に生かしている				1	0	8	3	0	
○高齢者や地域の方々との交流を大切にしている				1	1	8	1	1	
○公共機関や地域の人材・施設・自然などを保育に取り入れる努力をしている				1	1	8	2	1	
○教会(神父様)と連携を図り、キリスト教文化や伝統に触れる機会を大切にしている				0	1	6	3	2	
○実習生受け入れにあたり、受け入れの意義や方針を理解し、適切に対応している				0	1	8	2	1	
小学校との連携		○地域の小学校との交流や情報交換に努めている	0	1	7	4	1		
		○小学校行事や授業参観など、機会に触れて小学校の教育に触れている	0	1	5	2	2		
		○小学校の教育内容について理解しようとしている	0	1	6	3	2		
3		地域の解放と支援	○こども園が地域の子育て支援の役割があることを理解している	3	6	4	2	0	
			○子育て支援（未就園児親子園開放）について理解を深め、支援の担い手としての自覚をもち所属している	2	3	6	2	0	
			○預かり保育・延長保育など各家庭状況に応じた支援を行っている	3	7	4	0	0	
VI 研修と研究	1	今日的課題に関する研修・研究	○特別支援を要する乳幼児に対する保育の在り方や対応を考え、研修を重ね、関係期間との連携を図りながら、保育を進めている	1	4	7	1	0	
			○自分の保育の在り方や悩みについて、園長や他の保育教諭と話し合っている	1	8	4	2	0	
			○乳幼児の内面理解・指導（保育）計画の作成・記録の取り方・考察の在り方・環境構成の在り方・教具・教材などについて、研修・研究を行っている	0	2	7	3	0	
			○子どもを取り巻く様々な状況が変化していることについて学習し、何が問題であるか、その背景・原因・実態について、理解したり学習したりしている	1	3	9	2	0	
			○SDGsやジェンダー平等・インクルーシブ教育など時代に沿った社会の流れに応じた知識を深め、自分なりに受け止め、理解し実行しようとする気持ちがある	5	4	5	1	0	



◎ 乳幼児の保育上の課題

- 言葉の発達が遅く、上手く伝えることが出来ない子への支援の仕方や言葉が少しでも多く出せるようにたくさん声をかけて行く等丁寧に関わっていききたい。  
また、食事の面で苦手なものが多い子への対応を丁寧に行っていきたい。
- 子どもたちの命を預かる責任を自覚し、安全を第一に考え、環境を整えたり、関わっていくこと。
- 子ども一人ひとりに愛情を持って接することで、安心感や信頼感を育ていける様にする。
- 遊び等を通じた子ども同士の関わりが、道徳性や社会性の芽生えとなる様、関わっていく。  
今年度は、職員の数が多かったので遊びや生活の場面全てにおいて、一人ひとりじっくり丁寧に関わる事ができ、子ども達も落ち着いた雰囲気の中で成長していく姿を見せてくれたと思います。  
やはり、職員が多いと手厚く保育できる事を実感しました。
- 異年齢の子ども達、同年齢の子ども達との交流が出来ること、沢山の経験ができることで、その場に合った環境づくりを考える。その為に、他の先生たちの意見や、やり方を聞き、勉強していききたい。

◎ クラス運営上の課題

- クラスの職員だけではなく、他クラスにも共有したり、アドバイスをもらうなどして、より良いクラス作りができるようにしたい。
- 複数担任だった為、子どもの小さな異変や些細なトラブルに気が付きやすい反面、お互いに任せ合うことがあった。その都度、情報共有はしたが、情報共有からの連携が必要だと感じた。
- 心配な子(支援が必要な子)に対する対応が上手くできていなかった。1対1で丁寧に関わっていく必要があったので今後は丁寧に関わっていききたい。
- 一人一人の子ども達の気持ちに寄り添いながら、子どもたちが健やかに成長していけるようにクラスの先生方と連携しあって、より良い保育を取り組んでいききたいと思います。 他クラスの人たちからも意見を聞きながらもっと良い保育をできるようにする
- 一人ひとりの個性と特徴の把握のために講習会に参加して専門知識を学びそれを自分の保育に取り入れる。
- 怪我を未然に防ぐ。その為に日々の保育環境の点検。安全確認をする。

◎ その他

- 保護者と出来るだけコミュニケーションを取るように心がけ、子どもの体調の変化に気を付けて行くようにする中で体調不良の早期発見などに努めて行くことが出来た。
- 食育についてももう少し勉強していく。0歳児は特に個々のスピードが違うので意欲に合わせてながらも誤飲に注意しながら、給食さんとよく相談し提供できるようにしていく。
- 研修などに積極的に参加したいと思う。
- 年齢ごと、個人ごとの特徴を把握し、職員間の情報共有を徹底する。
- 報告、連絡、相談を、欠かさずにしていく。
- 保育、仕事に関する相談をできる環境づくり。

2025年3月28日 記入